

北海道におけるキヌサヤエンドウ 「華夏絹莢（はなかきぬさや）」の 産地事例紹介～JA北ひびき・JA新函館～

雪印種苗（株）
北海道統括支店
北海道園芸営業課

1.はじめに

北海道産キヌサヤエンドウは冷涼な気候を生かし6～10月に収穫します夏秋どり作型が中心です。

生産地は道南・道央～道北・道東と全道各地に点在しており、出荷は道内市場はもとより関東・関西方面に出荷されています。課題として、7、8月の高温期の安定した収量の確保、莢の色抜けや過熱による品質低下、夏場に多いスリップスによる被害果低減があげられます。

2.「華夏絹莢」の主要特性について

「華夏絹莢」は寒高冷地の春～初夏播きに最も適する品種として販売しております。

以下に主要な特性について列挙します。

- 1) 収穫始めが三十日絹莢より3～5日程度遅い赤花の早生種。
- 2) 分枝数は少なめだが草勢は強く、草丈は1.6～1.8mとやや高い。
- 3) 莢はやや細長く、濃緑で光沢がある。
- 4) 双莢率が高く、着莢数が多い。
- 5) 耐寒性、耐暑性が高く多収。



▲ JA北ひびきサヤエンドウ部会長 山崎 貴さん



▲ JA北ひびき予冷中の「華夏絹莢」

3.産地事例

道内各地に「華夏絹莢」の産地は点在していますが今回は、道北と道南の二箇所をご紹介します。

1) JA北ひびき 温根別支所 (士別市温根別町)

士別市から西へ約10kmの地点に温根別町があります。昭和59年サヤエンドウ部会が設立され、現在は11戸で約100aを作付けしております。作型は露地栽培で播種も3回に分け6～10月まで収穫をしております。「華夏絹莢」の導入は平成15年から試作を行い、莢色の濃さと収量性で導入をしたとのこと。選別は全戸個選で出荷は道内市場が中心です。



▲ JA新函館上ノ国支店 出口秀樹主査



▲ 上ノ国町農業指導センター品種比較試圃場

2) JA新函館 上ノ国支店 (桧山郡上ノ国町)

江差町から南へ約8kmの地点に上ノ国町があります。サヤエンドウの栽培は40年前に遡り、現在は80戸で約1500aを作付けしております。作型も露地栽培が中心で6～11月中頃まで収穫。農協には野菜選果場があり、面積の多い生産農家が共選を行っており、おもに関西方面に出荷しております。

「華夏絹莢」の導入は平成17年から地元の「上ノ国町農業指導センター」で品種比較試験を行い、莢の濃さと耐病性、収量もいままで栽培していた品種より多収であったことから導入をしたとのこと。



▲ 共選風景

4.むすび

「華夏絹莢」は高温期でも莢の濃さと莢の形状で市場の評価を頂いております。

北海道のキヌサヤエンドウの面積は減少傾向ではありますが、品質向上のためにも是非とも雪印種苗の「華夏絹莢」をご利用頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。